

知識人は混迷する現代をどう生きるか  
ポーランドの俊英ザヌシが鋭く問う!!



# 「結晶の構造」

Struktura Krysztafu

THE STRUCTURE OF CRYSTALS

directed by KRZYSZTOF ZANUSSI

■上映企画■

カトル・ド・シネマ

欧日協会

■協賛■

ポーランド大使館

中野公会堂 4月15日(火), 19日(土) 開映PM6:30  
四谷公会堂 5月15日(木), 16日(金) 開映PM6:30  
入場料—当日900円, 前売・電話予約800円, 会員700円

# 知識人の混迷を格調高い日常劇のなかに浮かび上がらせる!!

## 結晶の構造

- 1969年度制作モノクロ作品・76分
- ポーランド映画
- 1970年マルデルプラタ国際映画祭  
最優秀脚本賞受賞

### スタッフ・キャスト

- 監督・脚本 / クシシュトフ・ザヌーシ
- 撮影 / ステファン・マティヤシュキェヴィッチ
- 音楽 / ウォイチェフ・キラル
- 主演 / アンジェイ・ジャルネツキ(マレック)  
ヤン・ミスウォヴィッチ(ヤン)  
バルバラ・ヴジェシンスカ(アンナ)

### 解説



「結晶の構造」はザヌーシの長編映画第一作であり、脚本も担当している。この作品が、映画学校に入る前にいたワルシャワ大学での物理学専攻の学生であった頃の彼自身の体験に根ざしていることは彼も認めている。

実際、この物語は科学者たちの環境の中に設定され、主人公たちはワルシャワの科学界の实在の人物をそれぞれモデルにもっている。

ポーランドの知識人や科学者の生き方は、ザヌーシ自身学生時代から目の当りにみてきたところである。この作品では、1956年の“自由の空気”の共同体験者である科学者二人の十数年後の再会を描くことによって、それ以後の選択の結果からくる立場の違いと相互理解の不可能性を浮きぼりにしている。と同時に、ザヌーシは、あの共同体験とは何だったのか、また、現在のポーランドで知識人はどう生きるべきかを問っている。こうしたザヌーシの問いはポーランドだけにとどまらず、混迷する現代にあっては世界的な問題でもあると言えるだろう。

ザヌーシはこのような趣旨の映画の計画をモデルになっている科学者たちに話し、物語の中に科学的な面を創り上げるために彼らの助力を仰いだ。こうして主演者たちはこの映画の発想のもととなった人々に会う機会を得、長い話し合いの間に登場人物の人格を理解しようと努めた。したがってザヌーシが映画の中で描こうとした登場人物は可能な限り実物に迫っている。

### 物語



ヤンはソクラテス風の科学者である。大都会や群衆を好まない。大学での学業を終えると、科学研究所のポストを放棄して、ある測候所の仕事を引き継ぎ、妻アンナとともに山林の奥にある家に移り住んだ。

彼の学生時代の友人マレックは、彼とは対照的な人生を歩みつつあった。科学者としての道を選び、まもなくその頂点に登りつめようとしており、そのためには少々モラルに反することもやっけてのける人物である。そして外国の奨学金を受けて留学し、数年ののち有名な学術協会の学位を受けて祖国に戻ってきた。

帰国後初めての休暇を利用して、マレックは遠く離れた場所に住む昔の友人に会いにくる。山林の家に着いて十数年ぶりに再会した二人は、お互い少なからず戸惑わざるを得なかった。また、海外での興味深い体験談や、ぜいたくな外車、それに彼の得た学位などは、片田舎での質素ではあるが調和のとれた生活に不協和音を打ち鳴らすようだった。

マレックは、初めのうち、ヤンのような高度な学問を修めた人間が、どうしてこのような生活に満足しているのか理解できなかった。彼はヤンにワルシャワへ戻るよう説得する。その科学的才能を無駄にする権利は君自身にもない、とまで言う。

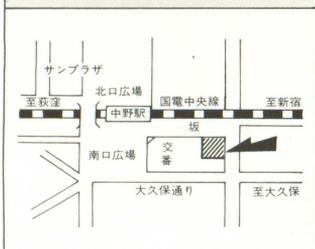
しかし、ヤンとアンナが親切にもてなしてくれる家に長くいればいるほど、かき乱されるべきではない二人の幸福をマレックは理解し始めるのだった。彼自身はヤンと同様の生活を続けることには耐えられないが、だからといって、自分の生き方が普遍的だとも決して言えないのだと心に深く刻んで自分の世界へ帰って行くのだった。

### クシシュトフ・ザヌーシ

1939年6月17日ワルシャワに生まれる。ワルシャワ大学物理学科に在学中から映画に興味をもち、映画批評やシネクラブの活動をするようになった。58年、「天国への電話」という短編を作ってアマチュア映画コンクールに入賞。59年、ワルシャワ大学を卒業した後、クラクフのヤギェウォ大学で哲学を学び、ついでウージュの映画学校の監督科に入る。66年に作った卒業制作短編「ある司教の死」は各国の映画祭に出品され、短編部門で片端から入賞を果たし注目された。ついでテレビ向け短編映画2本を演出したあと、69年に長編第一作「結晶の構造」を発表するや、ポーランド映画界の新しい世代のホープと目され期待を集める。以後、テレビと劇映画の両分野にまたがって活躍を続けており、今やアンジェイ・ワイダとともにポーランド映画界を代表する監督である。

### 公開日程

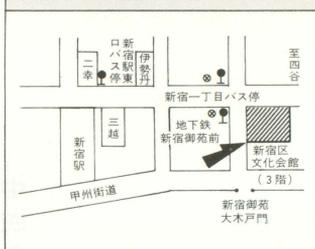
中野公会堂 ☎03-381-1316



中野公会堂  
4月15日(火)・19日(土)

四谷公会堂  
5月15日(木)・16日(金)

四谷公会堂 ☎03-341-2991



開映  
PM.6:30

入場料

当日900円、前売・電話予約800円、会員700円

主催

カトル・ド・シネマ ☎03-314-3693

欧日協会 ☎03-407-6780

※ポーランド映画新作公開企画・第三弾は、今秋公開予定の「砂時計」(ウォイチェフ・J・ハス監督)です。